



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：ナイフ第二副首相就任の背景 (3月27日付アル・ウドゥス紙)

27日付アル・ウドゥス紙はナイフ内相の第二副首相任命の背景や理由について、サウジ事情通（複数）の所見を取りまとめて報じている。概要は以下の通り。

1. ナイフ内相の第二副首相任命は、アブドゥッラー国王がアラブ・サミットに出席するためドーハに向かう直前のタイミングであり、特にスルタン皇太子兼第一副首相が不治の病に苦しみ4ヶ月以上も国外に居るということもあって、国政を進める国王代理を任命する必要があったためであろう。
2. ナイフ内相及びサルマン・リヤド州知事は、治療のため国外で療養中のスルタン皇太子に付き添っていた。今回の任命は、スルタン皇太子を納得させ、ステイリ家の権益を確保し、一致団結させようとの試みであり、また、サウジ内外にサウード家は団結し、協力し合っているというメッセージを与えようとしたのかもしれない。
3. 突然のこの決定には次の二つの異なる説明が考えられる。
  - (1) この任命は、アブドゥッラー国王が忠誠委員会を設置する事によって（事実上）廃止された第二副首相の地位の復活であり、第二副首相は、スルタン現皇太子に何か起きた際には、自動的に皇太子になる。
  - (2) この任命は、ステイリ系王子達の怒りを納める試みであり、皇太子の地位がナイフ王子に決定したという意味ではない。これは移行期に過ぎず、忠誠委員会の職種と重要性が覆された事にはならない。サウジは国王の不在時に政務を掌る人物が必要で、皇太子は国外にいるからである。
4. この任命は、同腹の兄弟であるナイフ王子とサルマン王子の間の競争に決着をつけ、後者が皇太子になる可能性を減らす事になるかもしれない。
5. 今回の任命は、トルキー・アル・ファイサル王子、アル・ワリード・ビン・タラール王子、ハーリド・ビン・スルタン王子、バンドル・ビン・スルタン王子やアブドルアジーズ・ビン・アブドゥッラー王子等の、サウード家の若者達や、国政においてより大きな役割を果たす事を望む第二世代王子達を落胆に陥れるかもしれない。

6. ムクリン総合諜報庁長官は、アブドルアジーズ初代国王の子供達の中で最も若く、様々な地位を狙ってきており、米国を始めとする海外で教育を受けたこと等から、皇太子位を襲うに相応しいとして推挙されてきた。
7. この任命は、政権及び女性の権利における抜本的な改革を望んでいたサウジのリベラル派を落胆させるかもしれない。
8. ナーイフ内相兼最高メディア会議議長は、先日「国会（諮問評議会）に女性の代表は不要である。選挙制度も必要ない。任命が常に好ましい。仮に選挙制であれば、現在の議員の能力レベルには及ばなかったであろう」と述べた。